



# 農業なかしべつ 第34号



地区、一木さんあとに新規就農された須藤優也さん、里沙子さん、ひなのさん（3）、りりのさん（9ヶ月）ご家族を訪問し、お話しをうかがつてきました。

夫の優也さんは中標津町の西竹出身。酪農を営まれてお生まれになりました。

地元の中標津農業高校を卒業後、北海道立農業大学校

に進学され、2年間農業の勉強に励みました。また、実家は長男が継いでいましたので、将来は農業関係の仕事に就きたいと考えていた

そうです。卒業後は町内のファーム・エイに就職をして、酪農ヘルパーの仕事に四年間従事されました。その頃に里沙子さんと出会い結婚。

が芽生え、お子さんが生まれ、その思いはさらに強くなつたそうです。そ

こからいろいろな情報を集め、チャンスをうかがつてていた頃、農協をはじめ、実家を継ぐお兄さんの協力もあり、夢に向かって走り出すこととなりました。はじめに研修に入ったK牧場では半年間、特に繁殖について学び、次の1牧場では半年間、酪農全般につい

## 須藤夫妻新規就農への道

に進学され、2年間農業の勉強に励みました。また、実家は長男が継いでいましたので、将来は農業関係の仕事に就きたいと考えていた

そうです。卒業後は町内のファーム・エイに就職をして、酪農ヘルパーの仕事に四年間従事されました。その頃に里沙子さんと出会い結婚。

が芽生え、お子さんが生まれ、その思いはさらに強くなつたそうです。そ

こからいろいろな情報を集め、チャンスをうかがつてていた頃、農協をはじめ、実家を継ぐお兄さんの協力もあり、夢に向かって走り出すこととなりました。はじ

めに研修に入ったK牧場では半年間、特に繁殖について学び、次の1牧場では半年間、酪農全般につい

て学びました。さらに就農して、平成三十年六月に経営継承で、念願の就農となりました。現在牛は二十五頭、十二月頃までは工事も完了し、六十頭になる予定です。また、放牧酪農でロール体系での経営になります。最初の一・二・三週間は厳しかったけど、今はようやく慣れてきて、休みは無くなつたけど、好きな酪農をやつてていることが楽しいと感じています。牛が健康に育つてくれればいいということでした。

最後にこれから農業を志す方たちへメッセージを頂きました。「やる気と行動力が重要。やってみないとわからない。諦めないで行動してみること」。須藤さんご家族にはお忙しいなか、取材にご協力いただきありがとうございました。

須藤君が就農した東西竹地区は、昭和十五年から昭和三十年に開かれた地区であります。その後、離農跡地に就農される人が昭和四十三年、五十年、五十七年、平成元年、平成十三年、平成二十四年、二十五年、二十六年と次々と入植しています。戸数の少ない地区で営農年数も様々ですので、相談や助言を受け易いと思われます。また、実家も近くの酪農家ですので協力を得られる事でしょう。

地区の行事に積極的に参加をして、地域に馴染んで頂きたいと思います。経営者や後継者の中でも一番若いので、大変な事もあると思いますが、好きな酪農の道を邁進してください。

就農して間もない人と、二代目、三代目の人が互いに切磋琢磨して、地域を支え、酪農の発展に寄与してもらいたいと思います。



東西竹地区  
農業委員  
瀧本 和男

## 地域からのエール

候不順により大幅に収穫作業が遅れ、これが北海道全体の事態となり、早くも秋の生乳生産への不安要素となりました。そのまま一番草も天候に恵まれない状態が続く中、9月6日の胆振東部地震により、これまで全道規模の停電（ブラックアウト）を体験することとなりました。冬季の吹雪による停電は想定済みの我が地域も今回のことで非常用発電機の全体的な設置に向けた準備を迫られることになりました。デントコーンの収量は日照不足により、平年比を大幅に下回り、品質の面からも牧草と合わせて、31年生乳生産への対策が必要とな

③認定農業者 法人等の多様な  
担い手の確保・育成による農地  
利用の最適化の推進などを通  
し、先人達が地域の財産として  
作り上げてきた農地を次世代  
の経営者へ引き継いで行く事  
が重要と考えます。若き後継  
者が規模の大きさではなく、そ  
れぞれの経営に適した、集約化  
した農地を有効に活用し、前  
進んでいただきたいと思います。  
す。また、昨年は多くの後継者  
が結婚されました。中標津町  
農業後継者対策協議会として  
も、各種行事への参加を通して  
多くの新しいカップルが出来

最後になりますが、農業委員会は地域農業者の代表として、地域の皆さんのご意見を聞き、優良農地の確保と有効利用に集積に関係機関と連携して積極的に取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力ををお願いいたしますとともに、地域全体の発展を御祈念し挨拶させていただきます。

年頭にあたり

中標津町農業委員会 会長  
**本田 信幸**



平成三十年

## 平成三十年の主な活動について報告します

平成30年1月～12月までの1年間で12回の総会が開催され、付議された案件は次のとおりです。

- 

① 農地法第33条許可申請～45件

② 農地委員会～4回

③ 広報特別委員会～4回

④ 第33号、第34号発行

⑤ 現地調査～81件

⑥ 農地法第4条許可申請～11件

⑦ 農地法第5条許可申請～8件

⑧ 現況証明願い～27件

⑨ 農用地利用集積計画～128件

第18回農業委員会総会(H30.12.21)



## 土地評価の様子(H30.11.9)

- 「のほか、農業委員は個別にも担当地区内で委員活動を行っています。

⑥ 買入協議の要請／9件  
⑦ 農地所有適格法人の定期報告による要件確認

# 農業者年金協議会から

## 「農業者年金加入推進セミナー」参加報告

## 「農業者年金代議員等研修会」開催

## 「根室地区農業委員等研修会」開催

## 「根釧女性農業委員の会総会」開催

### 中標津町農業委員会



平成三十年十一月三十日に全国農業者年金連絡協議会と全国農業会議所主催によります、農業者年金加入推進セミナーが東京・メルパルクホールで、全国各地から農業者年金関係者約700名参加のもと盛大に開催されました。



埼玉県川越市で米問屋を経営する金子真人氏による記念講演の他、音更町農年協及び群馬県みどり市と鹿児島県和泊町の農業委員会による加入推進に関する活動事例報告が行われ、最後に申し合わせ決議が承認され閉会となりました。

平成三十年十一月十七日、根室地区年金協議会の代議員及び農業委員を対象とした研修会が別海町役場を会場に開催され、当町からも19名が参加いたしました。

## 「農業者年金代議員等研修会」開催



平成三十年十一月十九日に根室管内の農業委員等を対象とした研修会が町内のウエディングプラザ寿宴にて開催されました。当町からも委員と事務局18名が出席しました。当日は農業・農業委員会を取り巻く情勢や農業経営基盤強化促進法の改正等について農業会議より説明を受け、また、全国農業新聞の普及推進について、全国農業会議所より説明がありました。研修会終了後は引き続き懇親会が行われ、意見交換等により親睦を深めました。



平成三十年十一月二十日白糠町公民館において根釧女性農業委員の会総会が開催され、当町から上原委員と事務局長が出席しました。当日は根室・釧路管内2市8町村の女性農業委員16名ほか事務局員出席のもと、本年度の事業計画及び収支予算について審議され、女性農地利用最適化推進委員会員に加えて審議された一部改正についても規約の一部改正についても全会一致で承認されました。また、次年度の役員改選により会長には浜中町の堀住農業委員が、監事には厚岸町の石澤農業委員が選出され閉会となりました。

あけましておめでとうございます。

委員長	谷川孝二	委員	田中洋希	委員	竹村聰	委員	武田健治	委員	瀧本和男	委員	田中世一	委員	須崎智	委員	高橋正一	委員	藤田宏幸	委員	上原房子	委員	和泉光広	委員	江信一	委員	小林亨	委員	國光達男	委員	赤波江信二	委員	國光亨	委員	高橋正一	委員	中村正生	委員	小林亨	委員	康夫	委員	笠原信幸	委員	康博
-----	------	----	------	----	-----	----	------	----	------	----	------	----	-----	----	------	----	------	----	------	----	------	----	-----	----	-----	----	------	----	-------	----	-----	----	------	----	------	----	-----	----	----	----	------	----	----



両町委員の意見交換

十一月十五日、十六日の日程で委員七名、事務局一名で、上士幌町へ視察研修に行ってきました。十五日は上士幌町農業委員会で早坂晴雄会長より、町の概要と農業の概要の説明をいただきました。当町では三年前の国勢調査時より、人口が二百五十人増え、平成三十年九月末日で五千十七人。農家戸数は百五十七戸、酪農、畑作面積は酪農が一千六百五ha、畑作が

四千六百六十五haとなっています。因みに平成二十九年度の農産物生産額見込調査においては、一戸当たりの粗収入額の平均が一億四千四百五万五千円、10a当たりの粗収入額は一十六万七千円です。農家戸数の内訳は畑専71戸、畑肉7戸、畑畜(酪畑)2戸、酪専52戸、酪肉4戸、肉専11戸、畜専10戸です。作付動向はデントコーン、牧草で62%、他は麦類、馬鈴薯、ビート、豆類です。近年酪農法人の大規模化が進み、飼料作物用の土地が足りなくなり、土地の価格も高ければ10a当たり22万~25万もするそうです。また、上士幌町と言えば、ふるさと納税の額が十八億~二十億円ありますが、そのほとんどを高校までの無償化、子どもの数×百円の住宅新築時の補助等の子育て支援として使っています。



バイオガスプラントのシステムについての説明

## 道内視察研修レポート

広報委員 武田 健治

るそうです。そういう支援が四十代までの子育て世代の町内への流入につながりました。ただ、どこの地域も共通の人手不足感は否めず、畑作で言えば交通費を含め、一人一万二千円~一万三千円/日の給与を支払わざるをえない状況となっています。会議

場での中標津チームとの活発なやり取りの後、場所を移して(株)上士幌町資源循環センターという農協30%、組合員53%、土谷特殊農機17%出資の集中型バイオガスプラントを見せていただきました。町内に三つの大型プランクトを抱え、生乳生産10万tを支える畜排泄物処理施設となっていました。発電量は一基三百kwh、成牛換算で一千一百頭分の処理を成し遂げていました。ただ北電との契約の中で道内電力が過剰の場合、売電できないこともあった等、いろいろ



ガス発酵状態を見学

な問題が今後予想されるとおしゃっていましたが、この新しいシステムはランニングコストが低く、その点では有利でしょう。また、排泄物の集荷システムもしっかりとしました。

上士幌町農業委員会の皆さんにおかれましては寒い中、プラントの視察にも同行頂きありがとうございました。今回初めての視察研修でしたが、その地域それぞれの違いはあるにせよ、農業の根本は変わらず、また変えてはならないと思いました。人手不足を補うため、人が人を便利使いするような農業にはなってほしくありません。同行してくれた事務局、委員の皆様、バスの中でのざくしてスミマセンでした。(笑)



施設の見学



JAけねべつオータムフェア会場

十月二十日、JAけねべつオータムフェアと計根別地域交流会が秋晴れのもと、総勢200名を超える住民参加の中、開催されました。

JJAけねべつオータムフェアは数十年にわたり開催されており、計根別地域で定番のイベントの一つとなっています。当フェアでは、中標津町産じがいもや玉ねぎのつめ放題、乳製品や野付産秋味の販売をはじめ、中標津農業高校に

よる乳肉加工品や花卉の販売、JA青年部によるジャンボハンバーグとジャンボ豚串の販売、JA女性部による秀峰そば、摩周うどんの販売、計根別和牛振興会による和牛ハンバーグの販売、ジユニアホルスタインクラブによるホットココアの無料配布等、多くの地域関係団体により出店がされ、早朝よりたくさんの方々が来場して賑わいました。



じゃがいものつめ放題



大人気のbingo大会

当交流会は、平成二年から計根別市街住民とJA計根別管内農業者が一同に集まりました。

また、当日の午後からは、計根別地域総合振興対策協議会(通称・計総振)主催で計根別地域交流会が併催されました。

(写真提供・JA計根別)

# 全国農業新聞



発行日：月4回 金曜日発行

形態：B3版 10~14頁縦

購読料：月 700円

(送料、税込み)

全国農業新聞は経営とくらしに役立つ農業総合専門誌です。  
お申し込みは、お近くの農業委員、農業委員会へどうぞ。

## JAけねべつオータムフェア&計根別地域交流会 —養老牛地区 農業委員 田中 洋希



たくさんの来場者で賑わいました

フェアの最後には大抽選会が行われ、景品には各地域関係団体から提供いただいた品物や高級ホテルの宿泊券等が用意されており、会場は非常に盛り上りました。

また、当日の午後からは、計根別地域総合振興対策協議会(通称・計総振)主催で計根別地域交流会が併催されました。

『けねべつふれあいカーニバル』と称した地区対抗の運動会を開催し、各地区間の交流を行つてきました。しかしながら、地域住民の減少等により、若い参加者が少なかつたこともあり、平成二十一年の開催を最後に取りやめることとなりました。その後、平成二十三年からは市街住民と農業者の交流の場として、『計根別地域交流会』が開催されるようになりました。平成二十四年からはより多くの地域住民に参加してもらうべく、JA計根別主催のオータムフェアと同日開催することとなりました。会場には多くの地域住民が集い、焼肉やbingo大会が行われ、こちらも非常に盛り上がった会となりました。

## 地 区 の 話 題 か ら



農地パトロールの様子



砂利採取地の確認



利用状況調査報告検討会



下川原 幸男様宅(養老牛地区)



飯島 浩様宅(当幌地区)

# 農地は、かけがえのない公共財 「農地を守る農業委員会」～農地パトロール

## ●農地の利用状況調査

農地法では農業委員会が年1回、農地の利用状況を調査することが義務付けられています。当町では町内を9地区に分け、十月一日から九日まで、農業委員2名、事務局員1名の3名一班体制で地区毎の重点箇所を巡回して実施しました。

## ●農地パトロール

農地パトロールを十月十五日(月)10時から実施しました。砂利採取等の現地6箇所の完了の状況、進捗の状況を巡回し確認しました。完了箇所は、計画通り農地復元が行われておりました。

今後も「農地を守る農業委員会」として、本町の優良農地確保の為、活動してまいりますので、農業者の皆さん、関係者の皆さんとの理解・協力をお願い申し上げます。

今年度は中標津地区で2組、計根別地区で1組、法人化を含む3組の経営移譲が予定されており、11月7日から29日まで、地区担当の農業委員2名と事務局、管轄する農協担当者とで順次自宅等を訪問し行いました。

これから経営のバトンを受けるみなさんのやさりながい活躍に期待しています。なお、4月には家族経営協定調印式の開催を予定しています。

# 経営移譲説明会を開催

これから経営のバトンを受けるみなさんのやさりながい活躍に期待しています。なお、4月には家族経営協定調印式の開催を予定しています。

# 農業者年金に加入しましょう

あなたの老後、生活への備えは十分ですか？

老後の備えは **国民年金** + **農業者年金** が基本です。

年金は**家族・一人・ひとり**について準備することが大切です。

## 農業者年金の特徴

### 1 農業に従事されている方は広く加入できます

60歳未満の国民年金第1号被保険者(国民年金保険料納付免除者を除く。)であって年間60日以上農業に従事している方は誰でも加入できます。配偶者や後継者など家族農業従事者の方やパートなどで農業に従事されている方も加入できます。

**家族一人ひとりの年金を！ 今、女性の新規加入者が増えています**



### 2 保険料は自分で選べ、いつでも見直しできます

保険料を自由に決められ(月額2万～6万7千円の間で千円単位)、経営の状況や老後設計に応じていつでも見直せます。



### 3 税制面で大きな優遇措置があります

- 支払った保険料は、家族の分も含めて全額が社会保険料控除の対象となり、所得税・住民税が節税になります(支払った保険料の15%～30%程度が節税)。
- 農業者年金基金が保険料を運用して得られる収益は非課税です。
- 将来受け取る農業者年金には、公的年金等控除が適用されます。



まだまだあります。こんな特長▼

### 4 少子高齢時代に強い年金。年金資産は安全性を重視して運用しています

自ら積み立てた保険料とその運用益(付利)により将来受け取る年金額が決まる「積立方式(確定拠出型)」の年金です。少子高齢化が進んでも制度の安定性は損なわれません。

### 5 終身年金です。80歳までにお亡くなりになった場合、死亡一時金があります

農業者老齢年金は、原則65歳から生涯受け取ることができます。仮に80歳前に亡くなられた場合でも、80歳までに受け取れるはずであった農業者老齢年金の額の現在価値に相当する額を、ご遺族に死亡一時金としてお支払いします。

### 6 一定の要件を満たす方には、保険料の国庫補助があります

認定農業者で青色申告をしている方やその方と家族経営協定を結んだ配偶者・後継者の方など一定の要件を満たす方には、保険料の国庫補助(月額最高1万円、通算すると最大で216万円)があります。

この国庫補助額に見合う年金は、経営継承など一定の要件を満たせば特例付加年金として受給できます。また、経営継承の時期についての年齢制限はなく、事情に応じて受給の時期を決められます。

## 農業後継者対策協議会から

### 酪農家に嫁いで

— 第二俣落地区 横田晶子

「寒いのが苦手だから兵庫県より東には住まない」ずっとそう思っていました。私は兵庫県明石市出身で、海が近くにあり、幼い頃は海水浴が大好きでした。実家も農業とは全く関係なく、牛と関わる機会もありませんでした。昔から犬が大好きだったので、ドッグトレーナーの専門学校へ行き、卒業後はペットショップに

就職しました。自分の人生の転機は二十四歳の頃、ペットショップを退職し、次はどんな仕事をしようか悩んでいた時のことです。ふつと…本当にふつと、牧場で働いてみたいなあ」と思い、すぐに地元の酪農家さんの元で従業員として働かせていただきました。初めて見る牛は思っていたよりも大きくて、初めて蹴られた時の痛さは衝撃的でした。でも、一度もやめたいと思ったことは無く、牛の可愛さにどんどんハマつていきました。

そんな時に交流会の存在を知り「北海道の牛を見てみたい」と思い、参加させていただきました。そして、気付いたら嫁いでいました。本当に気付いたのは、横田家の家族の雰囲気がとても明るくて、楽しくて、この家族の



一員になりたいと思つたことと、牛に対する愛情がとても深く、この牧場で働きたいと思ったからです。

### 各種行事のご案内

農業後継者対策の一環として、交流会等各種行事の開催を計画しています。

詳しい開催内容・日程等については決まり次第、随時ホームページに掲載しご案内します。

ホームページは([中標津町 後継者]で検索!)

### 冬季交流会…参加青年募集中

本年は3月8日(金)から10日(日)まで、2泊3日の日程で冬の中標津町を舞台に開催いたします。参加女性は道内外を問わず募集を行い、冬のレジャーや観光、酪農体験など、道東の冬を満喫しながら交流することを予定しています。

申し込みは2月16日まで、交流内容等、詳しくは協議会ホームページでご確認ください。多数の参加をお待ちしています。

まだまだ、みんなのペースにはついていけず、力不足だと思いますが、牛さんと家族みんなが健康で仲良く過ごしていけるように、自分にできることを頑張っていきたいと思います。

最後に「田舎せ！子だくさん」を合言葉に、夫婦仲良く力を合わせて、賑やかな家庭を築いていきたいと思います。

### フレッシュミズの集い

#### 3月開催予定

日程・内容等決まり次第、対象となる方へ直接封書にてご案内します。



編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は天候不順、地震で苦労されたと思います。特に「ラックアウトではこんなに長い間、電気がこないとは思わず、電気がないと何も出来ないと痛感した次第です。これからは電気のありがたみを忘れずに大切に使っていきたいと思います。余談ですが、ホワイトアウトもいらぬですね。ともあれ、今年も皆さんにとって、良い一年になりますようお願いっています。(和泉)

発行元	中標津町農業委員会	広報委員長	和泉光広
中標津町丸山2丁目22番地		副委員長	赤波江信二
TEL(0153)73-3111		委員員長	武田健治
FAX(0153)73-5333		笠原孝二	長谷川康博
ホームページ	<a href="http://www.nakashibetsu.jp/nougyou_linkai/">http://www.nakashibetsu.jp/nougyou_linkai/</a>		

